

平成30年度 学校自己評価報告

県立村上中等教育学校

1 重点目標と具体的目標

| 重点目標 | 具体的目標 |
|-------------|---|
| 確かな学力を育成する | 1 個に応じた指導を一層充実し、進路実現を図る。 2 基礎的内容の確実な定着を図り、生徒がいきいきと活動する魅力ある授業づくりに努める。 3 質・量共に充実した家庭学習習慣の形成を支援する。 |
| 豊かな人間性を育成する | 1 自己の精神的・肉体的限界に果敢に挑戦する逞しい態度を育てる。 2 思いやりの心と社会性を培うとともに良好な人間関係を築こうとする態度を育てる。 3 創意を生かした自主的・積極的な活動ができるようにする。 4 服装を整え、礼儀等を身に付け、場に応じた品位ある自律的な行動がとれるようにする。 |

2 具体的な取組と評価

| 重点目標 | 具体的目標 | 結果 | 具体的方策 | 結果 |
|---------------------------|---|---|-----------------------------------|----|
| 確かな学力を育成する | 進路に対する意識が高まった生徒80%以上 | A | 「総合的な学習の時間」において進路研究を充実させる。 | A |
| | | | 各学年の発達課題を明確にし、進路に対する手だてを講じる。 | A |
| | 朝テストや小テスト、補習により、学習内容を理解したと実感した生徒80%以上 | A | 定期考査基準点に達しない生徒への指導を確実に行う。 | A |
| | | | 内容や方法などを工夫し、朝テストに取り組ませる。 | A |
| | | | 定期的に小テストを実施し、定着の状況をきめ細かく確認する。 | A |
| | 英検、数検、漢検において、各学年の目標への合格を目指す。 | C | 各検定とも1年に1回は受検するよう働きかける。 | A |
| | | | 検定対策講座を各教科で実施するなど合格に向けた支援を行う。 | A |
| | 前期課程 N R Tで偏差値60以上 後期課程 進研模試で偏差値60以上 | B | 模試に向けての指導を充実させる。 | A |
| | | | 結果を的確に分析、評価し、改善点を明らかにして対策を講ずる。 | A |
| | 卒業時 国公立大学合格者数3分の2以上 進学達成率100%に近づける | | 模試の結果をふまえた面談を実施し、個々の課題や成果を明らかにする。 | A |
| 授業内容の理解度に満足している生徒の割合80%以上 | A | 授業評価を年2回実施し、授業改善の課題を明確にするとともに、生徒の実態や要望を踏まえた授業を実施する。 | A | |
| | | 指導力の向上を目指し、授業研究を全員が実施する。 | A | |
| 授業改善に取り組む教師の割合90%以上 | | 授業態度の振り返りを定期的に行い、望ましい態度を養う。 | B | |

| | | | | |
|--|--|--|---|---|
| | 前期生は2時間以上、後期生は3時間以上を めどとし、自分で計画を立て、その計画を 基に学習を進められた生徒が80%以上 | C | 家庭学習記録による学習時間調査を行 い、不足している生徒に対する個別指 導を実施する。 | A |
| | | | 学年だよりを毎月1回以上発行し、学 校生活、家庭学習等について保護者の 理解を深める。 | B |
| | 前期課程の宿題の提出率80%以上 | B | 各教科とも、質、量ともに、十分な検討 の上家庭学習課題を課すようにする。 | A |
| | | | 各教科とも課題の提出にむけた働きかけ を確実に行う。 | A |
| 豊かな 人間性 を育 成す る | 目的の明確な充実した体験活動やボラン ティア活動を実施し、自らの成長を実感でき た生徒80%以上 | A | 地域や保護者との連携を図り、活動を 充実させる。 | A |
| | | | 事前・事後の指導を充実させ、活動の 意義や価値を十分に生徒に指導する。 | A |
| | 健康や安全に留意して生活できた生徒 90%以上 | B | 時期に応じた適切な健康管理指導を行 う。また、交通指導を徹底する。 | A |
| | 心身共に安心して学校生活を送れた生徒 80%以上 | A | 定期的な生活実態調査や教育相談及び スクールカウンセラーとの連携等を進 め、生徒の心の安定を図る。 | A |
| | | | マイノートや家庭学習記録を活用して 生徒理解に努める。 | A |
| | 人権教育、同和教育及び道徳教育の充実を 図る。 ・人権・同和教育の意識が高まった生徒の 割合80%以上 ・人権教育・同和教育に取り組んだ職員の 割合80%以上 | A | 生徒対象の講演会や人権教育強調週間 での学習を計画的に実施する。 | A |
| | | | 職員研修会を年2回実施し、外部指導 者の招聘など、研修内容の充実を図る。 | A |
| 学校生活上の課題を明確にし、その解決 を図るため、生徒会活動や学級活動に主 体的に参加した生徒80%以上 | A | 専門委員会、学年委員会、執行部等 で学校生活向上のための取組を企画し、 各分掌で調整の上、計画的に実践する。 | A | |
| 服装、登下校時間の厳守、さわやかな挨拶 を行った生徒80%以上 | A | 職員の共通理解に基づく評価を継続的 に行うとともに、指導強化期間を設け て指導の徹底を図る。 | A | |
| 成果 と課 題 | <ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた授業研究を実施し、参観者からの意見を参考にすることで授業改善を行うことができた。学習内容の定着を目指し小テストや補習等に取り組んだ。 ・6年間を通し、地域学習を軸とした総合学習を充実させている。28年度から導入した新潟巡検などの取り組みを継続している。 ・生徒の進路に対する意識を6年間継続して記録する「キャリアカウンセリングシート」を生徒の自己実現に向けて活用している。 ・「豊かな人間性の育成」では、ボランティア活動や各種体験活動など地域や保護者と連携した取組を継続して行っている。また、SCやSSWとの連携と深め、教育相談の体制を充実させた。 ・家庭学習時間の確保と、検定合格者の確保が課題である。課題の内容や取り組み方の指導を改善していく。検定については今後、大学受験に必要となる英語検定を中心に学校として取り組みを考えていく必要がある。 ・今後、新学習指導要領や大学入試制度の改革に合わせ、生徒の実態やニーズに応じ、評価基準や具体的目標を見直し、改善する。 | | | |